

第3回里山広葉樹利活用推進会議概要

1 開催日時及び場所

日時：令和7年2月12日（水）14：00～17：40

場所：日林協会館3階会議室

2 出席委員

第3回里山広葉樹利活用推進会議出席委員名簿のとおり

3 意見交換の概要

（青井委員）

- ・伐って出さないと始まらないので、伐出作業に対していかに支援できるが重要。

（末吉委員）

- ・消費者・生活者の共感・理解醸成が重要。
- ・消費者に対し、良い製品のストーリーを届けるだけではなく、「なぜ、里山広葉樹が大事なのか」という切実な現状と課題を併せて伝え、適切な危機感を持ってもらうことが必要。
- ・例えば、プラットフォームを通じて消費者が「森のこと、里山のこと、広葉樹のこと」を学べるような機会を提供して頂きたい。民間団体・学校等との連携もあり得る。

（鈴木委員）

- ・山林所有者や林業事業者需要側のニーズをいかに上手く伝えるかが重要。例えば、全国をブロック分けして、各地で全国広葉樹記念市を開催するなど、山側の関係者が勉強できる場を提供することをしてはどうか。
- ・「広葉樹」というだけで伐採してはいけないものという意識が未だにあるため、広葉樹施業がいかに役に立つかを科学的データにより示す必要がある。

（長野委員）

- ・林業界では長らく針葉樹中心であったが、「広葉樹も使える」という抜本的な意識転換が大切。
- ・プラットフォームは民間の需要サイド主導とすべき。また、山の手入れの担い手を確保するために、民間企業の力を借りることが必要。そのためには、広葉樹がカーボンニュートラル、地方創生、ネイチャーポジティブ、水源涵養等に与えるインパクトを定量的に評価する指標が重要。
- ・里山はまちと森林の接点であるため、まちづくりと森林づくりを一緒になって考える必

要があり、コーディネートできる人材が重要。

(都竹委員)

- ・里山広葉樹林は多様な価値があり、山に興味を持ってもらう入口としてちょうどよい。
- ・プラットフォームは全国レベルか、地域レベルのものを明確にすべき。飛騨市では、地域単位で行っているが、需要側のニーズは都市部となるため地域で完結することはない。都市と地方の連携は必要となる。
- ・川上から川中・川下をつなぐコーディネーターの存在は不可欠。

(西野委員)

- ・広葉樹の森づくりについては、森林のもつ多面的機能も重要視しつつ、様々な場面で発信していったほうがいい。
- ・プラットフォームには企業が関わっていくことが重要。今後企業が取り組むべきネイチャーポジティブや TNFD などに関連させるかたちでプラットフォームが運営できれば企業による森づくりや利活用が進むのではないか。

(廣瀬委員)

- ・家具や内装材には、ストーリー性やデザイン性が整っていない現状では、広葉樹を使ってもらえるようになるまでに時間がかかる。その間に広葉樹を伐採する人材を確実に育てる必要。
- ・素材生産業者が継続して生計を立てていける環境を整えるという視点を考えるべき。
- ・生産量・伐採量をどう増やすかに力点を置いたプラットフォームであるべき。

(盛委員)

- ・伐採者と利用者がサプライチェーンでつながっていない現状があるので、この間をコーディネートする人材がいれば、質の高いサプライチェーンが構築できる。
- ・特に広葉樹は需要も樹種も多様であるため、選別作業が難しく、ここをコーディネーターが担えるとよいのでは。

(森松委員)

- ・一般的に里山は荒れ放題というイメージがあり、広葉樹の森林整備を進めている苦勞が一般消費者に伝わっていない。
- ・広葉樹の森林整備に当たっては、特に、放置によって蔓が巻き付いた広葉樹の伐採は危険が伴うため、伐採前の除伐などの伐出作業に係る支援が重要。

(土屋委員)

- ・里山広葉樹利活用の検討は広葉樹を適切に利用するための、国民、行政にとってのパラ

ダイムシフトであり、このことを提言に明記すべき。

- ・グリーンウォッシュとならないようにするためにも、順応的管理やモニタリングが重要。
- ・広葉樹の樹種、用途は多様であるため、地域ごとに順応的管理とどういう材をどのように販売するかをコーディネートできる人材が必要。

(以上)

第3回里山広葉樹利活用推進会議出席委員名簿

	氏名	所属
委員	青井 秀樹	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 チーム長
	末吉 里花	一般社団法人 エシカル協会 代表理事
	鈴木 信哉	ノースジャパン素材流通協同組合 理事長
	土屋 俊幸	公益財団法人 日本自然保護協会 理事長（東京農工大学 名誉教授）
	都竹 淳也	飛騨市長
	長野 麻子	株式会社 モリアゲ 代表
	西野 文貴	株式会社 グリーンエルム 代表取締役社長
	廣瀬 直之	東京燃料林産 株式会社 代表取締役
	盛 孝雄	ひだか南森林組合 組合長付専務
	森松 亮	富山県西部森林組合 代表理事組合長

（50音順、敬称略）